

国労ちば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発 行 加藤 晃一
編 集 高橋 弘幸
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(23R)5953
FAX 043(23R)5967

ハラスメントは
許さない！
悩み事は国労へ

ジェネレーションギャップ!? いえいえ会社施策が産んだもの

タブレットでの個人学習では学びきれない

経験を・安全を引き継ぐ

どこの職場にも言えるが、経験豊かなベテラン社員が職場からいなくなってきた。

その結果、職場ではおかしな事象が起きている。

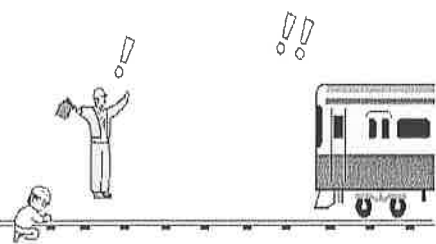
内容も伝えず 指示を出す上司

例えば、構内の設備巡回の際に「キャビン」と呼ばれる連絡員が信号所から列車の運行状況を見張り員にトランシーバーで伝える仕事がある。

これは、見張り員から見える範囲のみではなく、信号所の制御盤で列車の在線を把握し事前に危険を知らせる重要な任務である。

内容も聞かず仕事する青年

先日、それを新人社



員が任されて信号所に来たが、見張り員ダイヤも持参していなかった。聞いて見ると「行けと言われてただけなので」とあっけらかん…。

命を守るのは「人」

事前に何の説明もなく、本人も何をして良いか分からないとは、どういうことなのかと不安になってしまった。

新しい設備が導入されてきた。

ても命を守る安全行動は「人」に委ねられるが、それを守るべき人材が育てられないのが現状でもある。

タブレットから直接経験を学ぶ

職場によって違いはあるかもしれないが安全サービソ会議も今はタブレットでの個人学習になってきている。

社員同士の議論の中で経験豊かなベテラン社員の経験などを自分の知識として積み上げる場がなくなってきた。

個人学習では限界がある

会社は技術継承を叫んでいるが、個人学習では社員同士のコミュニケーションも希薄になり、学ぶ機会が失われている。

また、自分の経験から学べることはたかが知れている。

2023年度全国大会・東日本本部大会 代議員選挙結果

2023年度定期全国大会および東日本大会の代議員選挙は、定数通りの立候補のため無投票当選となった。

- ◎ 全国大会代議員 北嶋 利則 (千葉電気分会)
- ◎ 東日本本部大会代議員 嶋田 福実 (新小岩保線分会)

若い人との意識の違いは

JRは過去の歴史から学ぶべく「事故の歴史館」を作り、事故の悲惨さを後世に伝えようとしている。しかしながら現場ではその真逆で歴史から学ぶには程遠い。

以前ほどの職場にも、見ていただけ学べる先輩社員がいたが、今はそれも望めない。

若い社員は本来の業務以外に「企画業務」に追われている。

しかし、若い社員にとって本来業務以外にも何かをやるのは「当たり前」でもある。

ても新型コロナウイルス感染症が拡大した以前から比べると激減しており、今夏の手当は満足できる支給額ではないが、若い社員にとっては「出るだけまし」という感覚がギャップを感じてしまう。

話し合いから始めよう

何とも言い難い方向性の違いを感じるが「昔の話」と思われてもいい。若い社員とのコミュニケーションを図り、議論する中で、現状が正しいことではないことを分かってもらおう。

それが今、一番重要と感じる今日この頃…。

合図

国労本部が主催する組織拡大・経験交流集

今ここにいるのは自分の判断であるし、他人から強制されたものでもない。まさしく「自己責任」である。職場での信頼関係を築き、組織拡大の運動をしていかなければならない。その手法を皆さんは知っている。今からでも遅くはない。国労運動を継承させよう。(英)

東日本電気協議会交流会開催

国労東日本電気協議会は6月11日、新潟県湯沢町の湯沢東映ホテルにおいて第32回交流会を開催した。

各地方本部から46名が参加、その内、平成採用者は5名の参加だった。始めに井上副議長が交流会の議事日程を提起した。

国労東日本本部の彦田執行委員は組織の現状や「変革2027」での交渉状況などの報告を含めてあいさつした。

長より32回交流会の意義と議題として「組織問題」、「安全問題」、「変革2022・2027」について、あいさつを受けた。

各分科に分かれた分散会では、今後行われる団体交渉に向けての意思統一と、各地方の職場実態をつき合せた。2日目は分散会から始まり、引き続き問題を議論した。また、平成採用者については「平成採用者交流会」が短時間であったが同時開催された。

ビニールカーテン無しが初体験 コロナの不安はぬぐえたのか？

5月8日より、新型コロナウイルス感染症が2類からインフルエンザと同じ5類に変更となった。感染すれば医療費はすべて自費、休みは病気休暇か有給休暇となった。職場では、どのような変化が起きているのだろうか。運輸職場では、話所に設置されていたパーテーションや点呼台の乗務員と出迎との間のビニールシートが撤去された。車内放送での注意喚起放送もなくなった。また、乗務員へのマスク着用についても「個人判断で」

に変わっている。手の消毒液に関しては、以前同様、設置のままだが、コロナ対策で設置されたパーテーションがすべて撤去されたことが一番の困りごとだという。経費節減が一番の理由だろうか。駅では、職場により対応がまちまちで、従来通りに改札窓口にビニールシートを設置している所と撤去した所がある。マスク着用は「接客時のみで構わない」と少し緩和もされている。ビニールシート無しで

マスクをしていない客との対応は怖さを感じる職員もいる。駅や車内では利用者が増えているが、この利用者数の多さやビニールシートの無い改札窓口を知らない若い社員もいる。一挙に増えた利用者への対応からミスも多発している。一部からは「第9波が始まるのでは」という話も出ている。無くならないコロナ感染と、多客対応への不安は、まだしばらくは続くのだろうか。

全体会では、時間の都合により変電と信号の分科からの分散会報告となった。後藤議長が2日間のまとめを行ない、今後も電気協議会は運動を続けていくことを全体で確認した。最後は全体の「団結ガンパロー」を三唱して閉会した。



佐倉分会解散大会

佐倉分会は6月27日組合員13人中10名が参加し分会解散大会を開催した。開会挨拶で、秋山分会長は、「本日で分会は解散となるが、班として引き続き運動を進めて行く。」と継続を力強く訴えた。議題として、決算報告・収支剰余金の取り扱ひ・分会解散の承認について、議論した。財政については、この後の懇親会で締切り、口座を解約することを確認。収支剰余金については、すべて、新分会に資金委譲することを確認した。分会の解

散については、大会の総意で解散を承認した。佐倉分会という名称は変わるが、佐倉班として引き続き運動を取り組むこと、新分会への結集を改めて確認し、石毛副分会長の三本締めで終了した。



これが職場で苦勞する社員への回答？ 2023年度夏季手当

会社名	本年度	前年度	前年比
北海道	1.71ヵ月	1.60ヵ月	+0.11ヵ月
東日本	2.5ヵ月+5万円	2.30ヵ月	+0.2ヵ月5万円
東海	2.70ヵ月	2.20ヵ月	+0.5ヵ月
西日本	2.10ヵ月 (年間4.20)	1.34ヵ月+5万円	年間+1.06ヵ月
四国	1.59ヵ月	1.35ヵ月	+0.24ヵ月
九州	2.15ヵ月	1.64ヵ月	+0.51ヵ月
貨物	1.62ヵ月	1.72ヵ月	-0.1ヵ月
J E S S	2.22ヵ月	2.05ヵ月	+0.17ヵ月
C T S	2.5ヵ月	2.4ヵ月+5千円	+0.1ヵ月-5千円

千葉キヤリアン行動

6月3日「ちばキヤリアン実行委員会」の主催する第14回千葉キヤリアン行動が取り組まれた。

この実行委員会は千葉県内の労働組合やユニオンなど、15もの団体で構成されていて、「今すぐ最低時給15.000円以上！今すぐ同一労働同一賃金！」をスローガンに、千葉県内を回った。柏駅東口をスタートした一行は、松戸駅東



この行動には、延べ200名が参加した。